

日本バイオレゾナンス療法協議会

第1回勉強会 定員30名 参加無料

初めてのバイオレゾナンス

バイオレゾナンスデバイスの原理と実際の施術方法について、ドイツ Regumed社のBICOMを使って、EAVテストと施術プログラムを紹介しながら説明を行います。

講師: 湯浅正次

BRTジャパン バイオレゾナンスセラピスト
日本バイオレゾナンス療法協議会 教育委員長

ホメオパシーとEAVの応用から派生したバイオレゾナンス療法

ホメオパシーとEAVの歴史的背景、バイオレゾナンスとの関係と重要性について述べるとともに、バイオレゾナンス療法の施術に関する注意点やノウハウをお話します。
(詳細は別紙を参照してください)

講師: 添田均

株式会社 保険鍼灸マッサージ協会 取締役副会長
全国開業鍼灸師協会 会長
日本バイオレゾナンス療法協

日時:

2014年4月6日(日)

12:30-16:30

場所:

あすか会議室(東京駅八重洲中央口から徒歩2分)

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1ダイヤ八重洲口ビル3階

303D室 (東京駅 八重洲中央口より徒歩2分)

アクセス <http://www.ochanomizu.net/yaesu/access.html>



参加ご希望の方は、会社・所属団体名、ご住所、お電話番号、メールアドレスをFAX(045-507-7854)へ送信するか、info@brt-japan.jpへメールをお送りください。必ず参加登録のメールもしくはFAXをお受け取りください。なお、定員になり次第締め切らせていただきます、ご了承ください。(第2回目は、6月8日(日)を予定しております。)

勉強会 その他内容詳細

1. ホメオパシーのレメディへの反応、計測手段
2. 古代から行われていた、握薬判定術。英国のアンリ四世のロイヤル・タッチ。
3. ホメオパシーのレメディの数値化
4. 電気鍼測定器としての活用、鍼灸師に悲願である、客観的な測定器
5. EAVの創始者、ドクター・フォル
独創的な発想で、ホメオパシーと中国医学を結びつけた医者ストーリー
フォル医師の発見その1 薬物選択のための測定器
フォル医師の発見その2 レメディ・テスト
 - ・ハーブも食品も、あらゆるものが測定できる装置
 - ・EAV装置の誕生→その経緯と装置の発展、現在
 - ・EAV装置の応用→正確なツボ、経絡が見つけれられる
6. 皮膚の電気抵抗を測定することで、内臓の異常の有無が推測可能
医師が活用すれば、様々な領域の診療科目に応用可能な装置
7. 身体や物質間における共鳴現象→バイオレゾナンスとその原理
あらゆるものが測定できる機械。物質には各々固有の振動数がある。
言い換えるならば共鳴振動数が存在する。
8. 物質と生体との反応テスト
重要な指標となるインディケータ・ドロップ、病気の早期発見も可能なのか？
9. 1970年代の電気鍼による鍼麻酔と手術への応用
1972年に、中国の鍼麻酔による手術のニュースが世界を驚かせた。日本の医師も次々と鍼麻酔手術を追試したが、麻酔効果をあげるには鍼に流す電気の周波数が重要だと気がつく医師が現れた。
10. ロバート・ベッカー医学博士 生と死の電気
11. ノーベル賞に数度ノミネートされた、ベッカー医師の研究。プラスの電気とマイナスの電気は、どちらが生命体に都合が良いのか。
12. ハロルド・サクストン・バー教授の研究
13. 異端と言われた医師、ジャック・ベンベネスト医学博士
電子ホメオパシーの誕生→化学的な現象でなく物理的な現象で捉えると説明がつくことを提唱した医師。超高度の希釈溶液であっても、水は情報伝達の担い役となり物質の痕跡を継承させる実験。異端の烙印を押された、ベンベネスト医師の逆襲。真実はベンベネスト医師の方であったはずなのに、医療ファシズムともいべき弾圧のため、失意のうちに鬼籍に入った勇氣ある研究報告と驚きを隠せない「水の記憶事件」の結末。

14. 鬼才、早熟の天才ジョセフソン博士
15. ブライアン・ジョセフソン教授は、1973年に日本の江崎玲於奈らとノーベル物理学賞を共同受賞している。ジョセフソン博士は、アロパシーと敵対関係にあるホメオパシーおよび上記ベンベネスト医学博士を今も庇護し続けるノーベル賞受賞者の1人である。
16. 細胞間の情報伝達ネットワーク→微小管
細胞骨格である微小管は、振動が一定のパターンを持っている。しかも個々の微小管は他の微小管と振動を同期することができる。
世界的に高名な物理学及び数学者である英国のロジャー・ペンローズ教授は、微小管が細胞間の情報伝達ネットワークに重要な働きをしていると説明している。
17. キャンデス・パート博士とペプチド→感情と生体内の分子
化学物質は生命体の言語として、身体内で電磁的な振動に変換されて瞬時に体の隅々に伝達される。
18. 人体に潜在する、Xシグナル系と間中喜雄医師
19. 奇妙な液体、ただの水が薬になるとき？
20. 皮膚の電気抵抗とガンとの関係、再びドクター・フォル
1950年代、通常の病院の検査で確定診断されている、数多くの患者の経穴の電気的な伝道度をフォル医師は測定した。その結果、急性症状や炎症性の病気の患者の伝道度は高く、逆に退行変性の病気の患者の伝道度は低いことに気がついた。
特に重篤なガン患者の伝道度は、著しく低かった。
ガンの共鳴周波数はあるのか。ガンの治癒、実例報告とその証拠！？
21. 医療、健康としてのバイオレゾナンス
バイオレゾナンス装置を医療関係者が臨床に応用するには。
22. バイオレゾナンスとホモトキシコロジー
健康になるためには細胞内外に蓄積した有害な毒素の排出と、ルドルフ・シェーンハイマー博士が証明した身体のリモデリング(新陳代謝)について。
23. ドクター・ヘーリングとハーネマニズム
24. 多くの病気に関与する病原体
EAVやバイオレゾナンス装置を用いると、かなりの確立で細菌やウイルス等の病原体が広範囲な病状にかかわっていることが理解できる。
25. 生物学的な調和振動→エントレインメントについて
バイオレゾナンス装置は、複雑に常に変化しているはずの身体内の複雑な振動および細胞等の微弱な電気信号を捉えて、測定、分析することが可能である。